

191 キジムナーと友達

うまぬ門んかい、ウスク木ぬ大が生やーにや、うぬ木んかいギジムナーぬ巢作てい。

あんし、んまぬ家ぬ主が、海かい行ちに、必じギジムナーんスールスルしやー、追ていつ来、でーじな海ぬでいきていよ、あんさーに、金持さくとうやー、あんしん毎夜毎夜、ギジムナーが来やー、海んかい行ちゆんでいち。

なー、金持さくとう、ふゆーさーにや、なー、かねーるギジムナー、今日や海かい行ちぶこーねーんあれー、また今日んあぎまーち、んでい言やーに、あんさーい妻んかいやー、

「私達が海んかい出じーらーや、うぬ木んかい五寸釘打ち込みよー。あんさーに、火燃しよー。うぬ木ぬ穴ぐわーふーじーなとーる所んかい、藁火燃しよー」ん

その家の門に、ウスクの樹が生えていて、その樹にギジムナーが、巢を作っていたそうだ。

それで、その家の主人が、海に漁に行く時には、必ずギジムナーもスルスルスルと、追つて来て、それで漁は大漁になって、それで、金持ちになったが、それでも毎夜毎夜、ギジムナーはやって来た、海に漁に行こうと。

さあ、主人は金持ちになったので、煩わしくなつて、もう、こんなギジムナーと、今日は漁に行きたくもないのに、また今日もせかされてしまうし、と思つて、それで妻に、

「私たちが海に漁に出たら、その樹に五寸釘を打ち込みなさいよ。そして、火で燃やしなさいよ。その樹の穴になっているところに、藁で火を燃やしなさいよ」

でいち、海かい行じゃくとう、海をうてい魚おー取や
がなー、ギジムナーが、

「あいえーなー、私家や焼きーるむん」でいやーに、
なー、スールないよー、ギジムナーや帰ていはていし
や、なーいんねーすんねーなー、釘打ち込まつてい、
なー火燃さつていよー、あんし、うぬギジムナーが、
「いやーひやー、助きていん、うんぐとうるするい、
とー私ねーうまねー住まーらんくとう、何んでいる家
ぬフィンブンぬかい、緑りぬ二葉出じてい、生とうる
木ぬ有くとう、私ねーうぬ木んかい行ちゆくとう」ん
でい言いたんでいよー。

うぬ家がよー、また、ギジムナーが金持なさーに、
でーじな金持さんでいぬ話やたんどー。

字与座 城間ウシ

と言つて、海に漁に行くと、海で魚を取りながらギジ
ムナーが、

「あれもう、私の家が燃えている」と言つて、もう、
スルスルスルとね、ギジムナーは帰つて行つてしまひ、
みるともう、釘が打ち込まれていて、火で燃やされて
いてね、それで、そのギジムナーが、
「おまえは、助けてあげたのに、そんなことをするの
か、もう私はそこには住めないから、何とかという家
のフィンブンに、緑の葉を二葉つけている、生えてい
る樹が有るので、私はその樹に行くよ」と言つていた
そうだよ。

その家も、また、ギジムナーが金持ちにしてあげて、
とつても大金持ちになったという話だったよ。